藩政期の絵図に見る飛越地震

A Study of HIETSU-JISHIN shown in Pictures of Edo Era

村田　晶*，安達　實**，宮島昌克***

By Akira MURATA, Makoto ADACHI and Masakatsu MIYAJIMA

１８５８（安政５）年２月２６日明け方、飛騨(岐阜)・越中(富山)地方を襲った飛越地震で、立山の大鳶・小鳶の両山が崩壊し、常願寺川上流をせき止めた。その後この大泥水湖が押し出し、中流から下流一帯を泥海化し、大きな被害が生じた。

地震時の状況、大泥水の流出などについて、貴重な古絵図でこれを紹介し、この地震を後世に語り継ぎ、今後の防災教育に資したい。

１．安政の飛越地震と常願寺川洪水

１８５８（安政５）年２月２６日、飛騨（岐阜県）と越中（富山県）境を中心に起こった飛越地震は、マグニチュード６．８。推定震度は富山で６である。飛騨北部・越中で被害が大きく、飛騨では死者２０９名、家屋の損壊約７００棟、越中（加賀藩を含む）では死者２１７名、家屋の損壊流失約４０００棟であった。被害を大きくしたのは地震の被害そのものより、立山山中の大鳶崩れであったと考えられる。立山の弥陀ヶ原の南、立山カルデラの火口壁が大鳶山・小鳶山もろとも崩れ落ち、常願寺川上流の湯川と真川を各所で堰き止め、３月１０日と４月２６日の２度にわたる堰き止められた岩石土砂と雪解けによる川水の増水による流出によって被害が大きくなった[1)~11)]。

なお、詳しい説明はこれまでに多くの研究発表でなされていることから、本稿では省略し、ここでは現在残る貴重な絵図を中心に説明をする。

２．地震災害の絵図・記録

安政５年の大地震では、富山藩内の被害が大きかった。ここでは『地水見聞録』を中心に，以下に示す絵図や古文書を用い説明する[1)-5)]。

（１）『地水見聞録』挿入スケッチ（富山県立図書館蔵）

題箋には、「安政５年越中大地震地水見聞録」とあり、富山藩士滝川一瓢の記述と、藩の絵師木村雅経のスケッチで構成される。絵は６枚彩色、和綴。安政５年２月２６日早暁の大地震の被害や被災者の生活状況などの記述で、震災資料としては貴重である。

図-１　御城辺の略図。御本丸など石垣崩れ、大地割れる。

図-２　市内破裂や土蔵破損の略図。大地より水が吹き上がる。

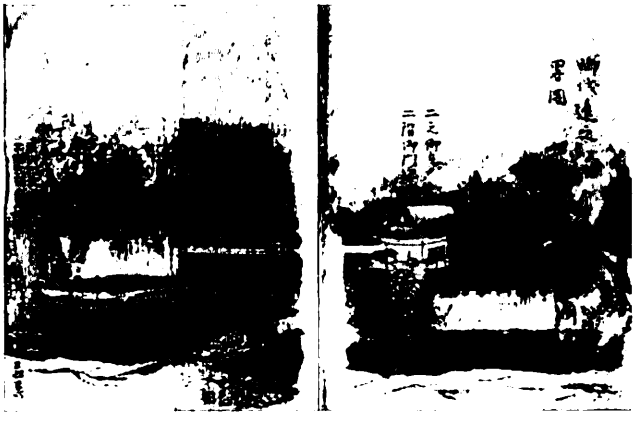

図-１「地水見聞録」御城辺の略図

図-２「地水見聞録」市中破裂や土蔵破損の略図

*Keyword:江戸期、地震災害、飛越地震

*正会員　博（工）　金沢大学助教　理工学域環境デザイン学系

**正会員　博（工）　(株)アステック、　***正会員　工博　金沢大学教授　理工学域環境デザイン学系

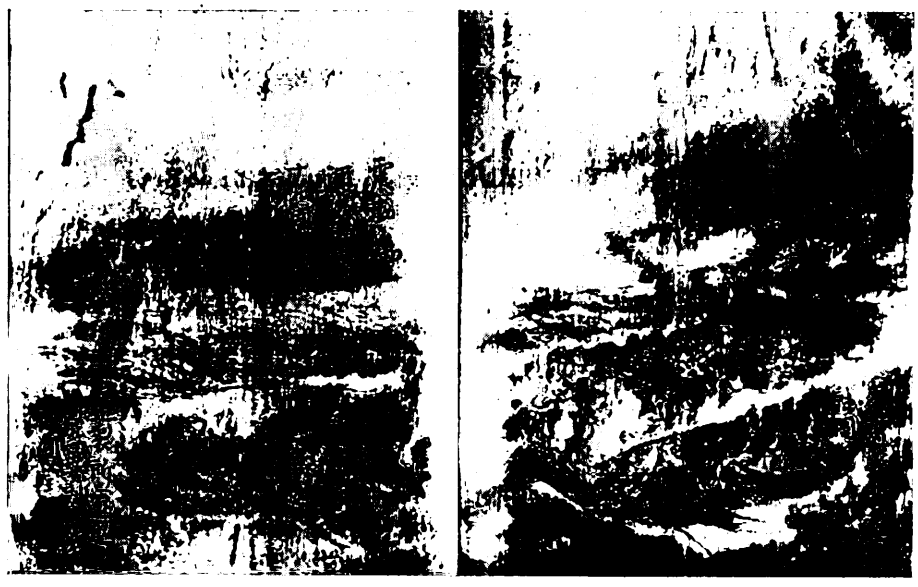

図-3　「地水見聞録」　左　地裂所へ逃退した男女踏落したる疎図
右　大地裂け、水を吹上げる疎図

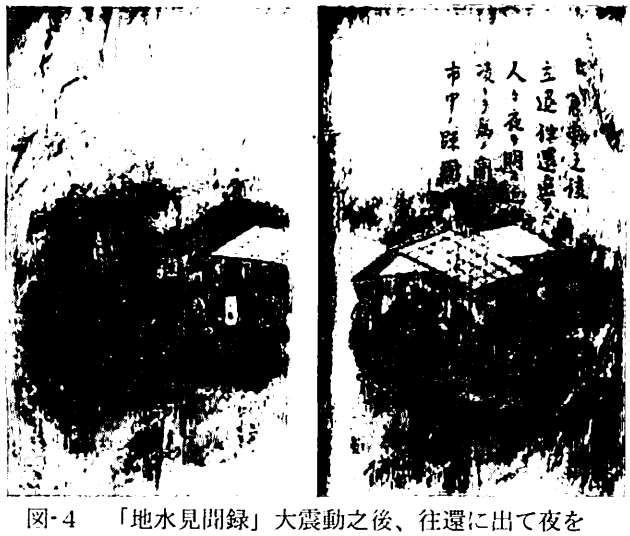

図-4　「地水見聞録」大震動之後、往還に出て夜を明かす迄、市中の疎図

図-5「地水見聞録」　左　常願寺川上流の山岳崩疎図
右　勝興寺通の建石裂けたる図

図-6　「立山大鳶山抜図」（全体図）山抜けに関する絵図の中で最も雄大な絵図　93×207cm　彩色

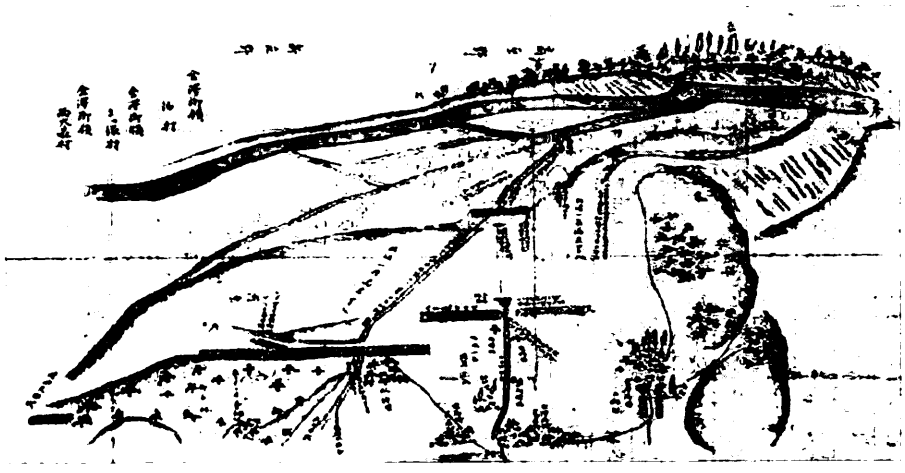

図-7　「富山藩常願寺川よりの用水被害復旧図」洪水氾濫による中流部の荒廃状況を示す 56×94cm　彩色

図-3　大地裂け水を吹上げる様子で、液状化現象が描かれている。

図-4　大震動之後、道路上で夜を明かす。

図-5　常願寺川上流の真川・湯川辺りの山崩れと勝興寺通の建石が裂ける。

（2）「立山大鳶山抜図」（富山県立図書館蔵）

図-6　立山絵図、4月10日（3月10日の誤記）の洪水図、4月26日洪水図の3枚貼り合わせて1軸に仕上げたもの。安政5年飛越地震による山抜けに関する絵図のなかでは最も雄大である。

（3）「富山藩常願寺川の用水被害復旧図」（富山市郷土博物館蔵）

図-7　洪水後の中流部の荒廃を示す。随所に「泥入り」、「泥岩など入り交り」など注記がある。押し出した巨岩を「此大石を安政山と称す」と記載があり、その凄さを物語る。

（4）「安政五年常願寺川非常洪水山里変地之模様見取図」（滑川市立博物館蔵）

山方（上流）と里方（平野）に分れている。

図-8　里方図は下流（平野）での災害の様子を表し、3月10日、4月26日の2回の洪水泥入りの様子を色別で描かれ、被災村数、損害石高数、復旧経費、被害人馬、被害家屋数などが記されている。

図-9　山方図は当河川上流（立山奥山）の様子。

（5）『北国地震記』（金沢市立玉川図書館蔵）

図-10　古文書『北国地震記』の一部、最初の部分。安政・飛越地震の記載がされている。いずれも1）～5）による。

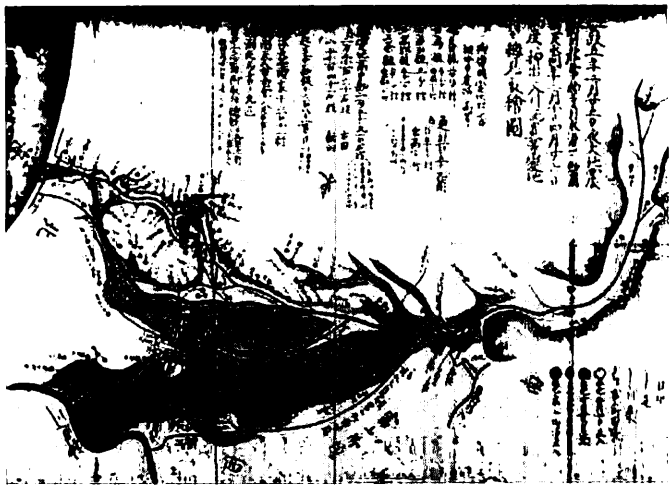

図-8　「安政五年常願寺川非常洪水山里変地之模様見取図」（里方図）28×40cm　彩色

図-9　「安政五年常願寺川非常洪水山里変地之模様見取図」（山方図）28×40cm　彩色

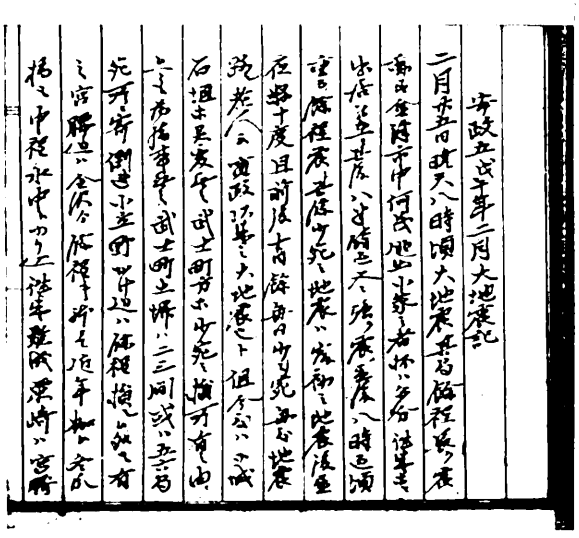

図-10　『北国地震記』（金沢市立玉川図書館蔵）
安政・飛越地震の記載

3．おわりに

災害の絵図の作成について、安政５年の大地震には、県内の多くの河川にも被害があったが、常願寺川以外の絵図は少ない。当時藩の災害担当が、常願寺川の災害状況を重視していたものと思われる。これらの貴重な絵図により安政の大地震の詳細を知ることができる。

常願寺川と防災については、安政５年の大災害に驚いた加賀藩は、河川工事に取り組んだ。この治水事業は幕府崩壊後、金沢藩、石川県、明治１６年より富山県にひきつがれ、この難治の荒廃河川の治水は、明治以降の歴代の名治水技術者によって進められた。ヨハネス・デレーケ、赤木正雄、橋本規明などである。これら先人たちの活躍で富山の安全と安心が守られ、現在に到っている。地震時の対応や、その後の先人たちの活躍についてはたくさんの発表があり、ここでは省略する。

このような飛越地震と立山大鳶崩れに関する多くの貴重な絵図を集成し、発行された立山カルデラ砂防博物館（広瀬誠監修）に大いなる敬意を表したい。

本稿をまとめるにあたり、北浦勝　金沢大学名誉教授、そのほか多くの方々からご指導とご支援をいただきました。厚くお礼申し上げます。

参考文献

1）『越中立山大鳶崩れ』、立山カルデラ砂防博物館、１９９８．
2）『立山カルデラ砂防博物館』、左に同じ、１９９８．
3）『越中安政大地震見聞録』、ＫＮＢ出版部、１９７６．
4）『地震の記憶』、広瀬誠著、桂書房、２０００．
5）『地震・大水・火事―富山』、左に同じ、１９９９．
6）『新編日本被害地震総覧』、宇佐美龍夫著、東京大学出版会、１９９６．
7）『富山県史　通史編Ⅳ　近世下』、富山県、pp.896~903、１９８３．
8）坂茂樹編：『大地震の日本史』、ダイアプレス、２０１１．
9）吉友嘉久子：『地震・地すべり・大崩落』、ダイナミックセラーズ出版、２００８．
10）寒川旭：『日本人はどんな大地震を経験してきたのか』、平凡社新書、２０１１．
11）『河川文化ミニフォーラム　―常願寺川と風土―』、国土交通省北陸地方整備局、２０１１．

その他
『富山県気象災異誌』１９７１．
『とやまの河川』１９８８．
『常願寺川治水史』２０００．
『富山工事事務所六十年史』２０００．
『富山県史　史料編Ⅳ』１９７８．
『越中史料第三巻』、１９０９．
『富山県政史第六巻（乙）』１９４７．
『富山市史　通史』１９８７．
『図説　富山県の歴史』１９９３、
『ふるさと富山歴史館』２００１．
『富山大百科事典』１９９４．
『日本災害史　２地震・津波』２００１．
『石川県災異誌』１９７１．
『加賀藩史料』１９５８．
『金沢市史』２０００～２００５．
『理科年表』２０１１．